【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成20年5月29日(2008.5.29)

【公開番号】特開2005-349198(P2005-349198A)
【公開日】平成17年12月22日(2005.12.22)
【年通号数】公開・登録公報2005-050
【出願番号】特願2005-165170(P2005-165170)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　5/12　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　10/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　5/12
Ａ６１Ｂ　10/00　Ｊ
Ａ６１Ｂ　10/00　Ｔ

【手続補正書】
【提出日】平成20年4月15日(2008.4.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
蝸牛水腫を診断する手順であって、その手順は、
マスキングなしの広帯域クリック音刺激に対する患者の聴性脳幹反応（ＡＢＲ）を記録するステップと、
複数のマスキングされたＡＢＲを記録するステップと、
マスキングなしの反応におけるピークＶ波と、低カットオフ周波数を有するマスキングされた反応のピークＶ波との間の潜時の差異を計算するステップと、
前記潜時の差異が、適切な実験対照集団における結果に基づく閾値に満たない場合、蝸牛水腫が存在する可能性があると診断するステップと、
から構成され、前記マスキングされたＡＢＲは、ハイパス・カットオフされた複数の周波数のある１つの周波数でハイパス・カットオフされたハイパス・ノイズによってマスキングされた広帯域クリック音刺激に応答することを特徴とする手順。
【請求項２】
前記低カットオフ周波数を有するマスキングされた反応のピークＶ波は、マスキング不完全なＶ波成分であることを特徴とする請求項１記載の手順。
【請求項３】
前記複数のカットオフされた複数の周波数は、８ｋＨｚ、４ｋＨｚ、２ｋＨｚ、１ｋＨｚおよび５００Ｈｚであることを特徴とする請求項１記載の手順。
【請求項４】
前記低カットオフ周波数は、前記カットオフされた複数の周波数で最も低いことを特徴とする請求項１記載の手順。
【請求項５】
前記低カットオフ周波数は、５００Ｈｚであることを特徴とする請求項１記載の手順。
【請求項６】
前記潜時の差異は、存在すると思われる蝸牛水腫の存在を診断するため、他の蝸牛水腫の測定値と組み合わされるを特徴とする請求項１記載の手順。

【請求項７】
前記他の蝸牛水腫の測定値は、前記マスキングなしの反応のピークＶ波の振幅に対する前記複数のマスキングされた反応のピークＶ波の振幅の合計の振幅比率を有することを特徴とする請求項６記載の手順。
【請求項８】
前記他の蝸牛水腫の測定値は、低カットオフ周波数を有するマスキングされた反応と前記マスクなしの反応間の前記交差相関を有することを特徴とする請求項６記載の手順。
【請求項９】
前記他の蝸牛水腫の測定値は、前記マスクなしの反応と、前記マスキングされた反応の合計との間の振幅差異を有することを特徴とする請求項６記載の手順。
【請求項１０】
前記他の蝸牛水腫の測定値は、前記マスキングなしの反応のピークＶ波の振幅に対する前記低カットオフ周波数を有する前記マスキングされた反応のピークＶ波と、前記マスクなしの反応のピークＶ波との間の前記差異の比率を有することを特徴とする請求項６記載の手順。
【請求項１１】
前記他の蝸牛水腫の測定値は、前記マスクなしの反応のピークＶ波と、前記マスキングなしの反応のピークＶ波の振幅に対する前記低カットオフ周波数を有する前記マスキングされた反応のピークＶ波との間の前記差異の比率が前記マスキングなしの反応のピークＶ波と前記低カットオフ周波数を有するマスキングされたピークＶ波との間の潜時の差異により乗算された積を有することを特徴とする請求項６記載の手順。
【請求項１２】
前記低カットオフ周波数を有する前記マスキングされた反応のピークＶ波はマスキング不完全のＶ波成分であることを特徴とする請求項１１記載の手順。
【請求項１３】
前記他の蝸牛水腫の測定値は、前記マスキングなしの反応のピーク波振幅に対する前記低カットオフ周波数を有する前記マスキングされた反応のピークＶ波の比率を有することを特徴とする請求項６記載の手順。
【請求項１４】
前記低カットオフ周波数を有する前記マスキングされた反応のピークＶ波はマスキング不完全のＶ波成分であることを特徴とする請求項１３記載の手順。